



情報共有の町づくり

羽幌町議会議長 橋本 修司

新年あけましておめでとつございませす。

ご家族おそろいで2008年の新春をお迎えのことと存じます。昨年の方統一選挙以来、町議会に対しまして皆様には温かいご支援とご理解を頂き厚くお礼を申し上げます。議員定数を4減しての選挙結果、負託を受けた12名の議員による議会構成が5月の初議会から始動いたしました。厳しい地方行政が続く昨今、羽幌町の発展と住みよい街づくり、12名議員一同日々研鑽・努力して参る所存であります。

さて、昨年を顧みますと国内外ともに激動の年でありました。地球温暖化が進み世界各地で干ばつや森林火災、局地的集中豪雨等、大きな災害が相次ぎました。また原油価格の高騰やサブプライムローンによる世界経済への影響、国内では5千万件を越える年金記載漏れ、総理大臣の辞任、与野党逆転した参議院、食肉偽装問題や賞味期限改ざん等など騒々しい年であったように思います。一方、夢膨らむ活躍が目立つたスポー

ツ界では、日ハムリーグ制覇、コンサドレジー復帰、星野ジャパンのオリンピック出場権獲得は明るいニュースでした。

町内の主な出来事と致しましては、7月の降雨量が少なく作物の影響が心配されましたものの大きな災害もなく穏やかな年でありました。基幹産業であります農業では、水稲が三年連続の豊作でありましたが新たにスタートした品目横断的経営安定対策による減額波及等、生産額では前年を若干下回りました。近年、道産米が人気を浴びておりますことから今年から稼動致しますライスターミナルを活用した食味の向上に大いに期待を寄せております。漁業では、主力のえび漁はじめ、たこ漁、サケの水揚げが減少致しましたがナマコ等高値で推移した為、本町の総生産額は28億円超の、前年並みの実績が見込まれます。不振漁種の水揚げ増加と市場価格の安定を期待しております。商工業では、景気の低迷から各業界の販売・生産ともに減少傾向にあり、街中商店街の活気を呼込む消費者ニーズの把握等魅力

ある商店街創造に期待する一方、地元消費の啓蒙普及は自立の町づくりに必要な相乗効果をもたらすもので、行政からの積極的な支援も必要であります。

議会活動では、総務産業常任委員会の案件として、市街地区幹線道路除排雪民間委託、焼尻めん羊事業の指定管理導入について承認し、港湾、公営住宅、都市マス、中部三町村火葬場は継続審議中であります。文教厚生常任委員会では、屋外スポーツ施設管理と各種スポーツイベント委託に含みを持たせた総合体育館指定管理導入を承認しました。継続審議中の特別擁護老人ホームの改築案件については、110床の定員維持の為に単独事業として10億に近い工事費や入居者の利便性・改築後の管理コスト面から、多床室とユニット型個室の配分についてなお慎重に審議中であります。行政改革調査特別委員会では、厳しい財政事情から、行政の効率化と徹底した歳出削減の見直しを続けております一方、使料・手数料の適正化や財政状況からみる各常任委員会の審議案件とスライド

する審議が継続致します。医療問題調査研究特別委員会では地域センター病院としての機能低下が心配される道立羽幌病院について9月に工藤道議や町長とともに議員全員で直接知事要請を行いました結果、サブ医療機能として広域医療を確保すること、研修医制度による全道的な医師不足から、広域圏単位で中核病院に医師集中・機能させること、北海道独自の政策による地方勤務医の育成により将来は常勤医を配置したい回答を得ましたが、救急搬送に備えたドクターヘリの地域導入とあわせ、住民の生命と安心を確保する為、今後も行政とともに引き続き要請を継続致します。

町議会と致しましては、住民の皆様と議会とが身近に接する、開かれた議会を提唱して参りました。情報を共有し健全な行政運営を監視・議決機関としての使命を果たして参りたいと思っております。

年頭にあたり、皆様が健やかで幸せ多い年となりますようご祈念申し上げます。年の挨拶と致します。